

# 被災農家に希望

相模原の  
土木会社 特殊な堆肥で塩害除去



稲を植えるための土壌を準備する柳谷さん(左)と庄子さん(右)  
川口市若林区(大上さん提供)

## 待機児童は460人

前年同期比で54人減

相模原市

相模原市は27日、市内のえなどによつて410人定員を増やした結果、待機児童数(4月1日現在)が前年同期比で54人減った。年齢別では、1歳児が最

仙台市  
若林区

## 水田の土壤改良実験

東日本大震災で津波による冠水被害を受けた仙台市若林区の水田地域で、相模原市南区の造園・土木会社「ワコーグリーン」が、同社の特殊な堆肥を使って土壤改良実験を行っている。現地の農家は「震災前の豊かな田園風景がよみがえってほしい」と期待を寄せている。

(川口 葉)

震災により津波被害に遭った被災地の水田は、塩害が懸念されている。農林水産省は、約2万㌶の水田が

津波により約4㌶の水田が2週間から1ヶ月近く浸水。ことしの作付けは諦められた。今後の見通しも立っていないといふ。

震災後、同社顧問で元相模原市議の大上和夫さん(63)のもとで、現地の親戚を通じて相談が寄せられた。剪定木にミネラルを加えて発酵させた同社の特殊な堆肥は、土壤を浄化する効果が期待できる。柳谷和幸社長(62)は、庄子さんへの協力を快諾した。

柳谷さんは、4月末に現地を訪れ、浸水した水田

の土だけでつくった土壤

と、堆肥を混ぜた土壤をつ

くった。それぞれに発芽の

早い小松菜の種を植えた

ところ、堆肥を混ぜた土壤

は順調に生育している様子

が確認できた。

今月19、20日にも現地を

訪ね、再び2種類の土壤を

用意。「ひとみばれ」の稻

水を植え付け、塩害の影響を

調べる実験を始めた。味や

収穫量など、結果は秋にならぬといふ。

週間が経過し、堆肥を混ぜた土壤に植えた稻は、青みを増してきたという。妻のみち子さん(69)は「無事に

稻が実れば、被災農家の希望になる」と語る。

柳谷さんは「被災した農家の皆さんの復興への第一歩になれば」と力を込めて

いる。



初  
夏  
に

## あすまで、厚木でさつきまつり

初夏を彩る恒例の「さつきまつり」が27日、厚木市内の中央通りと厚木中央公園の2会場で始まった。盆栽展など

義援金も募っている。出展者の一人で、日本皐月協会厚の美会の笠原秀元会長は「展示スペースを広く取るなど、ゆ

